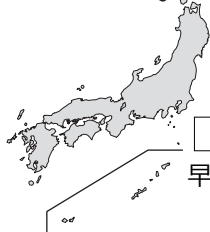


国土学事始め



大石久和

早稲田大学大学院
客員教授

「古代日本のハイウェイ」300年前の「列島改造」で、昔の官道の様子が紹介されました。何と現在畑になっているところに、大和朝廷時代の官道が現れることがあるというのです。

官道の端部はいまと同じように側溝が掘られていました

古都と地方結ぶ七道 畑から出現

す（面白いことに、今の一車線もほぼ3倍なのです）。昔の歴史の常識は「進歩史観」でしたから、道幅も新しい時代の方が広いものと思っ
ていました。ところが、ここ20年間ほどの発掘調査で、大和朝廷の官道の方が、江戸時代の東海道などより相当に幅

道、東海道、山陽道などの官道とほぼ同じ場所を通っているという歴史的なおもしろさ
はかつて紹介したことがあります。このことは、古代官道が
高速道路のようにまっすぐに造られたことを示しています。

今年が平城京遷都1300年目にあたるということで、奈良では多くのお寺が秘仏を公開するなど、めったに経験

から、やや深く土に埋まっています。そのため雨上がり
の日に、土の厚い両端だけが乾きさららないために、黒い2

広だったことがわかって、学会の常識がひっくり返ったのです。

建設機械が一つもなかった時代に、全国にまっすぐに伸びる幅の広い道路ネットワークを構築した古代人の情熱には驚かされるばかりです。大変な数の人々が強制的に動員されたことでしょう。道の立派さが権力の強さを示しています。

できない観光シーンを生み出しています。この奈良に都があった時代に、都と地方を結ぶ七道と呼ばれる官道が整備されました。

この幅は、もちろん場所によって異なりますが、9〜12倍
くらいあることが多く、だいたい3倍の倍数になっています

稲を刈り取った後の現代の田に、千年以上も昔に造られた道路が姿を現すなど、ビックリもいところですが、NHKの画像はしっかりと古代官道跡をとらえています。

とところで、単に利用目的ならこのような規格の道路は必要なかったはずですが、なぜ大和朝廷はこのように造ったのでしょうか。この謎も古代ロマンの一つとなっています。

NHKのBS放送の番組

現在の高速道路が、東山